子どもを守る 住環境チェック術

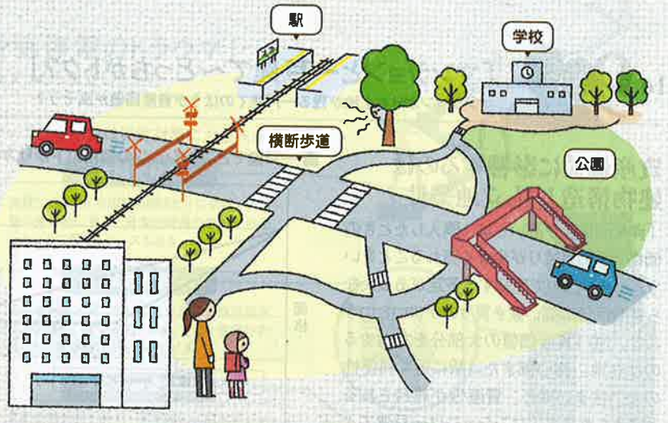
子どもがいる、またはこれから生まれる家庭にとって、子どもを安心して育てられる環境かどうかは住まい選びに欠かせないポイント。子どもと一緒に安心して暮らすために、住環境にひそむ危険をあらかじめチェックしておきましょう。

お話を伺ったのは…
ミキハウス子育て総研 代表
藤田洋さん
「子育てにやさしい住まいと環境」認定事業などを通し、子育てと暮らしの情報を提供。主な著書に『元気な子どもが育つ家』（週刊住宅新聞社）などがある

✔ チェックを始める前に

今と将来のリスクを親子で考えることが大事

現在だけでなく、将来どんなリスクがあるかを想像しながら、住環境をチェックしよう。ただし、子どもが事故や事件に絶対遭わない、100%安全な環境を求めるのは難しい。「大型商業施設ができて人や交通の流れが変わるなど、住環境は変わるものです」(ミキハウス子育て総研・藤田さん、以下同)。変化に合わせながら、普段の暮らし方や、もしものときの手段を子どもと一緒に話し合うことも大切だ。



こんなに違う！大人と子ども

子どもの見る世界は、大人が考えているものとは異なる。その違いを理解してからチェックしよう。

※出典 総務省統計局「日本の統計 2014」。成人男性は26～29歳、子どもは6歳男児の平均値

目線

子どもの目の高さは50cmも下にある

成人男性と6歳の子どもの身長差は平均で約56cm。大人には危険を察知しやすくても、子どもにとっては見えにくい場所も。死角ができやすいので、視線を落として確認するよう心がけよう。

歩幅

大人より歩幅が狭く時間と歩数が必要

大人と子どもでは、歩幅が大きく異なるため、同じ道を歩いていても大人より歩数が必要になり、速さも遅くなる。青信号の点滅時に横断歩道を渡り切れない事態も起こりうると理解しておこう。

視野

子どもは視野が狭く危険が目につきにくい

6歳児の視野は垂直方向で70度(大人は120度)、水平方向は90度(大人は150度)と狭い。一度に多くのことを認識できないので、交差点や十字路などで車の動きが目に入りにくく、事故につながりやすい。

子どもは大人の視野の一部しか見えていない

チェックポイント❶

駅～家までの道

車や自転車との接触が少ない道を探そう

家から駅までの道は、子どもが最もよく通る道のひとつ。周囲の交通量や、安全な歩道が確保されているか確認を。駅周辺は、人や自転車が集まる分、事故のリスクも高くなる。ガードレールがない、車や自転車の交通量が多いなど、子どもに危険のある場所はないか、実際に歩いてチェックしよう。

✔ ココをチェック

歩道の幅

ほかの歩行者と余裕をもってすれ違えるか

一段高い歩道があれば車と分離されて安心。子どもの身体は小さいので、自転車や歩行者の荷物とぶつかりやすい。ほかの通行者とすれ違うくらいの幅は必要だが、広すぎて自転車がとばしている場合も危険。幅だけでなく状況も確認を。

幅が5m以上あり、自転車用と歩行者用が色と標識で分けられている歩道は理想的

✔ ココをチェック

ガードレール

車道に飛び出せない分離された歩道が理想

「子どもはいつ飛び出すか分からないので、よく通る道は白線だけの歩道でなく、少なくともガードレールはほしいです」。また駅前や店先など、放置自転車などで歩道がふさがっている場所も危険だ。交通量も併せてチェックしよう。

ガードレールで車道と歩道が完全に分離され、子どもと歩くときに安心

私のヒヤリ体験談

子どもの足で渡り切れない横断歩道（Tさん）

駅前の横断歩道はとても長い。青信号に変わってから渡っても、子どもの足では渡り切る前に赤信号になってしまうほど！子どもを抱きかかえて渡るのが大変です。

私のヒヤリ体験談

白線だけの歩道ではみ出して歩く（Yさん）

ちょっと自動販売機で飲み物を買おうと、自転車を止めて3歳の娘を道に降ろした途端、歩道をはみ出して歩き始めてしまい、後ろから来た車からクラクションが。

私のヒヤリ体験談

歩行者が少ない道はクルマもとばす（Hさん）

最寄りのバス停から家までの道は、奥まった住宅街なのに意外と車の量が多い。しかも歩行者が少ない分スピードを出しているので、何度も“ヒヤッ”としています。

✔ ココをチェック

横断歩道の長さ

落ち着いてゆっくりと渡り切れるか

子どもは大人より歩くスピードが遅いので、小さいうちは長すぎる横断歩道は渡り切れない場合もあり、危険性が増す。もちろん、横断歩道では、青信号の点滅では渡らず待つなど、大人が子どもに手本を見せて、しつけることも大切だ。

子どもの歩く速さでもゆっくりと渡り切れるか、青信号の時間の長さを確認しよう

✔ ココをチェック

バイク・車のマナー

スピードや交通マナー 平日と休日ともに良好か

運転席からは子どもは見えづらいもの。大型車両が頻繁に通る道は避けたい。また住宅街内の道路でも幹線道路の抜け道になっていたり、一方通行で交通量が少ない分、通る車はスピードを出している場合も。できれば朝と夕方、時間帯を変えて確認を。

右左折の際に事故が起こりやすい。車の停止を確認して渡る習慣を

チェックのコツ

朝と夕方の駅前を見に行こう

「駅まわりの危険度が一番増すのは、朝のラッシュ時と夕方。特に朝は気持ちが焦っていたり、ほかのことに気をとられながら車や自転車を運転している人が多い分、危険です」。できれば平日の朝8時前後と、小学生児童の下校時の午後2時半～3時に車の交通量、自転車のスピードなどをチェックしておきたい。

チェックポイント❷

小学校～家までの道

小学校への通学路に想定外の危険はないか

子ども1人や、子どもたちだけで歩くことが多い通学路。通学予定の小学校を調べ、指定の通学路やその周辺を歩き、危険な横断歩道や踏切などを通らなくていいか確認をしておこう。交通規制のあるスクールゾーンや、何かあったときに子どもが駆け込める交番や児童館、地域のコミュニティセンターがあるとより安心だ。

✔ココをチェック 横断歩道の数

家から学校までの間渡る横断歩道は少ないか

人と車が交差する横断歩道は、交通事故が起きやすい場所なので、通学路には少ないほうが安心。踏切や、信号のない横断歩道は特に注意。また、青信号でも事故は起こりうるので、左右を確認してから渡るルールを子どもに守らせよう。

なるべく横断歩道を渡らず、車と接触せずにすむ通学路が理想的だ

✔ココをチェック 自転車の走行マナー

特に平日の朝注意して走行しているか

実は、車以上に事故になりやすいのが自転車。自転車がスピードを出し過ぎていないか、マナーは悪くないか、出会い頭にぶつかりやすい見通しの悪い十字路はないかなどを、できれば通勤通学時間帯に確認しておきたい。

歩道が広すぎず歩行者が多ければ、自転車もスピードを出しにくいはず

✔ココをチェック 路上駐車

子どもを見えなくする死角がある場所は避ける

路上駐車が常態化しているエリアは、その分死角が生まれ、子どもが飛び出しやすいなど、事故の元に。また歩道をふさぐことになるので、歩行者が車道に大幅にはみ出ないと通れないなど、子どもと一緒に歩くときにも危険性が増すので要注意だ。

駅前など商業施設が多いエリアは搬入などで路上駐車が多くなりやすい

✔ココをチェック 車の出入口

駐車場など車が突然出てくる場所はないか

突然車が動き出す駐車場やその周辺は、子どもにとっては気を付けにくい上、運転手からも背の低い子どもが死角に入って見えにくいなど、事故リスクが高い場所。個人宅、商業施設、駐車場などの車の出入口が見えやすいかどうか確認しよう。

商業施設の駐車場は、車の通る頻度が高く要注意。交通整備スタッフがいれば安心

私のヒヤリ体験談 路上駐車の影から飛び出しバイクと接触事故（Sさん）

お兄ちゃんを追っかけて、2歳の息子が突然道路を渡ろうとしたとき、路上駐車の影から飛び出した形になり、バイクと接触。軽いケガをしてしまいました。

私のヒヤリ体験談 スピードを出した自転車とぶつかりそうに（Eさん）

狭い道路かつ見通しが悪い十字路で、曲がり角から急にきた中学生の乗った自転車と、うちの6歳の息子が正面衝突しそうに。ほんと大ケガするところでした。

私のヒヤリ体験談 駐車場へ入ってくる車とあわや接触（Tさん）

子どもと歩道を歩いていたとき。商業施設の駐車場の近くで、車道側から車が突然入ってきて接触しそうに。ガードレールがある歩道だからといって安心できないですね。

チェックのコツ

地域の人に聞いてみよう

やはり地域のことは実際に暮らす人に聞いてみるのが一番。公園や児童館で子どもを遊ばせるママたちに声をかけてみては。「下校の時間に交差点で旗持ち当番をしている地域ボランティアの方なども、安全な道や事故例をよく知っているはずです」。また、小学校が独自で地域安全マップなどを作成している場合も。

チェックポイント❸

周辺施設

頻繁に使う施設が近く安心できる場所か

公園や商業施設は、子どもだけでなく大人もよく使う便利な場所だけに、トラブルに巻き込まれやすい場所でもある。子どもが成長するにつれ、親と行動を共にしない外出が増えるので、子どもが出入りしそうな施設の安全はきちんと確認したい。また、体調を崩したときの小児科や、救急病院が近いかも確認しておこう。

✔ココをチェック 病院

すぐに連れていける距離にあるか

子どもの病気は待ったなし。小児科が近くにあれば、すぐに診てもらえて安心。診療時間や土日対応可か、予約制かどうかを確認したい。できればいざというとき、夜間や休日に対応可能な救急窓口のある病院もすぐ行ける距離にあれば、なお安心だ。

小児科だけでなく、子どもがよくかかる耳鼻科、皮膚科が近所にあると安心

✔ココをチェック 公園

見通しがよく人の目が届いているか

天気のいい日中に、ファミリー層が多く過ごしているなど、周囲に一定の人通りがあり、外からもよく見える公園は安心感がある。「逆にゴミが散乱している、落書きが多い、人通りがあまりない住宅街のなかにあり、周囲の目が行き届かない公園は要注意です」

平日休日にかかわらず人気のある公園は、大人の目が届きやすく安心

✔ココをチェック 娯楽・商業施設

親が“嫌”と思う施設が徒歩圏にないかチェック

「パチンコ店、ゲームセンターなど、自分が教育上好ましくないと思うものがないか、確認を」。また、大型商業施設は便利な半面、知らない大人や若者との接点にもなる。1人の外出が増えてきたら、わが家のルール決めが必要だ。

小中高生のころを思い出し、「大人に隠れて過ごしやすい場所」と思ったら危険

チェックのコツ

モデルルームの販売員に聞いてみよう

自分の目や足で確かめるのが確実だが、手っ取り早いのはモデルルームの販売員に聞くこと。「医療施設、駅前の商業施設、人気の公園など詳しく調べているはずです」「通学路や駅前に顔見知りになりやすい個人商店がある、近所にいざというときに駆け込める“子ども110番の家”があると、なお安心ですね」

私のヒヤリ体験談 小3の息子がゲーセンにいた！（Sさん）

小学校3年生の長男が家にいない！どこにいったかと探しに探したところ、隠れて近くの商業施設のゲームセンターに通っていたことが判明。こっぴどく叱りました。

私のヒヤリ体験談 トラブル続出で救急病院へ（Mさん）

うちの娘はおてんば。誤飲、階段から落ちる、つまずいて顔を強打、遊具から落下など、何度も近くの救急病院に駆け込みました。近くになかったら大変だった。

わが子の顔を知っている近隣住民が心強い味方に

地域の人々にわが子の顔を知ってもらえれば、犯罪抑止効果になる。「自分自身がマンション内や地域の活動に参加し、ネットワークをつくる努力をすることが大切です」。とくに大規模な新築マンションの場合、一斉入居で同世代の子どものいる家族で顔見知りになり、助け合える土壌がつくりやすい。近年では、入居前から住民や入居予定者を集め、コミュニティ形成の場を設ける販売主も増えている。

写真提供：三菱地所レジデンス

「ザ・パークハウス 西新宿タワー60」では、入居後の生活をともに考えるイベントを開催している

取材・文／長谷井涼子　撮影／吉田武　イラスト／渡邊美里　デザイン／taraco design

記事の感想をお寄せください。抽選でギフトカード1000円が100名に当たります。詳しくは巻末を